



羅

針

盤

第1回実力テストはいかがでしたか。いくつかの教科は、公立高校の入試問題を意識して問題を作っています。少し難しかったかもしれません、入試はこんな問題で勝負しなければなりません。今後の学習の一つの目標として、頑張ってください。

偏差値は得点を計算し直しただけ ～実力テストの成績～

体験入学や説明会に参加し、インターネットなどで調べて自分に合った学校を見つけたら、次に入試で合格できる学力があるか考える必要があります。その学力を調べるため、本校では5回の実力テストを実施します。

さて、幸治君の第1回実力テストと第2回実力テストとの5教科の平均がどちらも70点だったとします。ところが、学年245人の平均が第1回は65点、第2回が35点だったとすると、幸治君は第2回の方が頑張ったことになります。

(グラフ①)

また、幸治君の第3回と第4回の実力テストの5教科の平均がどちらも70点で、学年245人の平均もどちらも50点だったとします。しかし学年245人のうち、第3回は70点以上の人か60人いたのに、第4回では10人しかいなかつたとすると、幸治君は第4回の方が頑張ったことになります。(グラフ②)

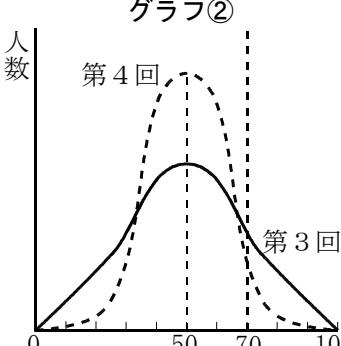
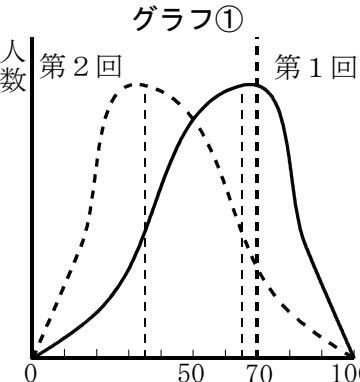
このように同じ得点でも学年の平均点や得点の散らばりによってその意味は変わってしまいます。そこでこの平均点や散らばりの違いを吸収し、得点を計算し直した値を偏差値(偏差点)と言います。この値は次のように計算します。

まず、そのテストの得点のちらばりを表す値「標準偏差」を計算します。

$$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{(\text{得点} - \text{学年平均})^2 \text{の合計}}{\text{受検者数}}}$$

($\sqrt{}$ (ルート)は2乗の反対の計算をすること この標準偏差と学年平均から偏差値を計算します。

$$\text{偏差値} = 50 + \frac{(\text{個人の得点} - \text{学年平均})}{\text{標準偏差}} \times 10$$



得点が学年平均と同じ場合、偏差値は50となります。また、標準的な得点分布(学年平均50点、標準偏差20)では、得点が0点で偏差値25、得点が100点で偏差値75となります。

このように偏差値はあくまでも得点を計算し直した値で、それ以上の意味を持ちません。入試で合格できるかどうか判断をする1つの資料となるだけで、その人自身を表す値では決してありません。またこの値は、得点分布がグラフ③のように平均点を中心にきれいな山形(正規分布)になっていると仮定しての値ですので、形が山形から崩れる程その値の信頼性は低くなります。

偏差値はそれぞれの集団の中での値ですので、異なる集団での偏差値と比べても意味がありません。例えば、学習塾でのテストは比較的得点の高い人が多く受けますので、平均点は高くなる傾向があります。従って偏差値は中学校での偏差値より低い値が出る傾向があります。

よく「〇〇高校の偏差値は△△だ」という話を聞きますが、これは「その偏差値を出したテストを受ける生徒の学力が毎年変化しないと仮定し、過去のデータからそのテストでの偏差値が△△くらいあれば合格できるだろう」という値です。したがって異なる集団でのテスト(例えば新東淀中)では、この値は全く意味を持ちません。そしてこの値はその高校の特質を表すほんの一部分でしかありません。

先に述べたようにこの偏差値は便利な値ではあります、あくまでもその集団でのテストの得点を計算し直した値に過ぎません。その人の学力の全てを表す絶対的な値だと過大に評価しないよう注意してください。

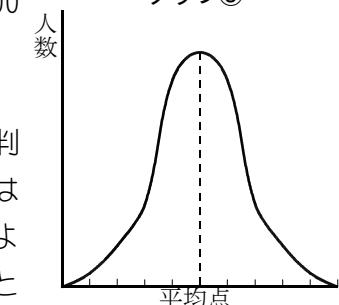
本校でも、この値の意味と限界をよく理解した上で、皆さんの進路を考える資料の1つとしてこの「偏差値」を導入し、生徒の皆さんや保護者の皆様にもお知らせします。繰り返し書きますが、この値の意味を過大に評価しないよう注意してください。

総合学科ってどんな学科？ ～柴島高校体験入学～



大阪府立柴島高等学校は、東淀川区民の強い要望と運動により、38年前の1975年に普通科高校として誕生し、東淀川区民によって大切に育てられてきました。そして17年前の1996年に、大阪府最初の総合学科の高校として生まれ変わり、最先端の授業を進めてきました。その後に新しく開校するほとんどの総合学科の高校は、柴島高校を手本としています。

総合学科の2年、3年のカリキュラムは、全時間の4分の3以上が選択授業です。他の学科にはないユニークな講座の中から、自分の進路にあつた授業を選択することができます。しかし、講座は全部で100近くあります。自分の将来を見据え、その中から自分の進



路にあった講座を自分の責任で選択することは大変なことです。

また総合学科では、3年次に 卒業研究 という科目があります。これは、それまでに学習したことを元に自分でテーマを決めて1年間をかけて研究し、最後にプレゼンテーションソフトなどを使って発表するという科目です。

最近は、ほとんどの大学の入試で、AO入試（自己推薦入試）を行っています。これは高校などで行なってきた活動を論文や面接でアピールし、その内容や意欲で合否を決定する入試です。多くの大学では、この総合学科の 卒業研究 の内容や研究活動の様子がとても高く評価され、学科試験ではとても合格できないような学校にも多く合格しています。大学に入ってからも高校で培った力を発揮して活動する学生が多く、高く評価されているそうです。

東淀川区では、市立の8中学の校長先生と進路指導の先生方で、「東淀川区進路指導協議会」をつくり、皆さんによりよい進路選択のための情報交換を行うとともに、東淀川区にある府立北淀高等学校とこの柴島高等学校を応援しています。

そして毎年「柴島高校」と「東淀川区進路協議会」が共同で、一般の体験入学とは別に「東淀川区8中学校の生徒対象の体験入学」を実施しています。高校の説明や体験授業、施設見学、クラブ見学の他に、新東淀中学校出身の先輩から柴島高校についての生の声を聞く機会も企画されています。特に今回は「選択」をテーマに、授業選択だけでなく、「自分にとってより良い高校を選択すること」についてお話しいただけます。

「総合学科ってどんな学科だろうか？」と少しでも関心のある人は、どんどん参加してください。他の「総合学科」の高校を選択する場合でも大いに参考になります。

実施日時は7月12日(土)午後2時からです。参加希望者は、6月27日(金)までに、この体験入学のみ家木先生に申し込んでください。多くの生徒の参加を待っています。



出席5分の4未満 → 留年

～高校の授業～

梅雨に入り急に蒸し暑くなったりためか、6時間の授業が受けられず、途中で早退する人が見かけられるようになりました。

何度も言っていますが、高校では成績を「単位」というもので付けます。各教科ごとに1年間の授業時数の5分の4以上出席し、テストで決められた点以上を得点すると「合格」となり、「単位」修得となります。病気などを含め、理由のいかんに関わらず出席時数が5分の4未満なると、どんなにテストの成績がよくても「不合格」となります。遅刻や早退も3回で1回の欠課となります。そして1教科でも「不合格」となると、原則「原級留置」(留年)となります。留年した生徒の多くはそのまま退学してしまっています。将来就職するときは「中学校卒業」よりも「高校中退」のほうがはるかに「不利」となります。

私立の高校は出願前に「進路相談」があり、最近は多くの学校で出席状況を聞かれます。高校の先生はこうおっしゃいます。

『中学校で授業に入れなかつた生徒のほとんどは、高校でも教室に入れていません。こんな生徒は1学期中に留年が決定し、多くは退学してしまいます。私学は入学時に80万円ほどの費用が必要です。国や府の補助は、10月末現在高校に在籍していないと支給されません。保護者の負担を考えると退学する可能性が大きい生徒は合格させない方がいいと考えています。』『点数がとれない生徒は、習熟度別授業や補習でなんとしてでも卒業させ、高校の責任で就職・進学させます。しかし、授業に出ない生徒はどうしようもありません。』

先日ある公立高校で「中高連絡会」(生徒の中学校や高校での様子等の情報交換し、課題のある生徒の今後の指導について話し合う会)がありました。その高校には、中学3年で授業に入れなかつた生徒を含め、新中から合計7人が入学しました。その内「遅刻や欠課がほとんど無く、よく頑張っている」といわれた生徒は2人だけでした。あの生徒は遅刻や欠課が多く、中間テストの成績も良くありませんでした。1人の生徒はたいした理由もなく中間テストを欠席しています。そして、2人の生徒は特に欠課が多く、後数回欠課をすると留年が決定すると言わされました。

「高校に入ったら頑張る」は無理です。高校の授業は中学校の授業よりはるかに難しく、あもしろくありません。義務教育ではありませんから、あしゃべりなどを繰り返すと「授業妨害」としてすぐ出されますし、寝ているとテストで合格点がとれません。

私たち教職員は進学を希望する生徒すべてに高校等に入学し、そして卒業して欲しいと願っています。とにかく教室に入る努力をしましょう。そして板書を写すことから始めましょう。その習慣さえ付けば、テストの点が取れなくても、何とか高校を卒業できます。

「では、いつから頑張るの？」「今からでしょう！」

学区撤廃の影響は？

～第1回進路説明会～

すでにお知らせしていますが、6月21日の土曜参観の後、11時から体育館で「第1回進路説明会」を開催します。

昨年度(現高2)は公立普通科の選抜が前期と後期の2回実施され、日程も大きく変わりました。今年度(現高1)は公立普通科の学区がなくなり、大阪府内の全ての公立高校に出願できるようになりました。来年度(皆さん受検)は大きな制度の変更は無いようですが、説明会ではこの2つの制度の変更影響についてお話ししたいと思います。

また、今後の進路予定とともに、高校等に進学するための費用と、奨学金についてもお話ししたいと思います。

公私何かとご多忙のこととは存じますが、万障あ繰り合せの上ご出席いただきますよう、ご案内申しあげます。

